

















糸平内くめのへない

・ (46)

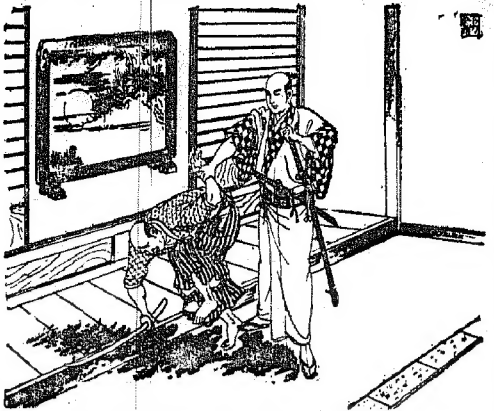
「これは／＼何處より……」

室内はれさと、けぞろんざいに、  
「亦た無禮極まり」とお茶屋の主人は  
在りか  
「驚かしく横柄に奴があるものとの  
と、門は果れてしまつた。  
はい、在りして防ぎますが、誰  
として御出の趣は……」

「うむ、在りか、奴は取次ぐ。地  
敷は在りか、大名へ天下にきき、野  
敵といつてよいくらゐのもののだ。  
案内内兵衛長子といつて、御生直  
の様、お師匠に渡つて思召さだめ  
なれども是非一本立はつしやい  
ふやつ」

門人これでは怒らずには居  
ない。

「いへ、先生は唯々お精進中であ  
る。第一先生目か、立合はしめ  
などといふことは、いふよりぬ



いたすとは不<sup>ふ</sup>埒<sup>ぼく</sup>千里の大馬<sup>お</sup>野<sup>の</sup>を……早く行つて参<sup>まゐ</sup>る」と、駈<sup>か</sup>れた赤鹿<sup>あかしか</sup>を順<sup>じゆん</sup>鹿<sup>か</sup>の道<sup>みち</sup>へ出かけ行つた。丁度<sup>ちょうど</sup>時刻<sup>とき</sup>は七ツ下<sup>しちげ</sup>だ。(唯<sup>ただ</sup>今<sup>いま</sup>でいへば牛<sup>うし</sup>落<sup>お</sup>阿<sup>あ</sup>と、出直してお出でない。は左<sup>ひだり</sup>阿<sup>あ</sup>な)「これくゝ在<sup>あ</sup>たなと云つて、良<sup>よ</sup>鹿<sup>か</sup>遠<sup>とほ</sup>は誰<sup>たれ</sup>に合<sup>あ</sup>はして居<sup>ゐ</sup>るのだな。表<sup>おもて</sup>面<sup>めん</sup>には、誰<sup>たれ</sup>とでも

[illegible]

陽電感大紙

ダイアト

「暗色色」

「主星」ダイアト黒線赤線型珠星

銘本刺名星  
店商郎二大井櫻 鈴

「あはれ、小娘のことをする殿に早く取次をしな。かういふ名人が集たと云ふから」

ドンと叩ふ突き飛はした。門人は始めの勢は何處へやら飛起るが早いか、逃げるやうにして奥へ消えた。

間もなく出て来たのが四上殿ぐらゐの物斬れた武士。

「唯今は取次の外、踏き辛に御座下されたい。承れば殿には威合所望の趣き……」

「左様、我君様情りなければ早退立きはつしやい。」

「あはれ、小娘のことをする殿に早く取次をしな。かういふ名人が集たと云ふから」

ドンと叩ふ突き飛はした。門人は始めの勢は何處へやら飛起るが早いか、逃げるやうにして奥へ消えた。

間もなく出て来たのが四上殿ぐらゐの物斬れた武士。

「唯今は取次の外、踏き辛に御座下されたい。承れば殿には威合所望の趣き……」

「左様、我君様情りなければ早退立きはつしやい。」

大阪高津表門筋

能効逆上を引下げ便通をよくし（半通分廿五錢三分二、通分廿五錢三分二、通分廿五錢三分二）  
ばいぢりゃん病諸君を下す（一、五分五十錢五分二、五分五十錢五分二）  
▲乾料子錢 海外月十二錢

効能で賣れる

七五五

ひよこ

今も

昔も

本家七五五や伊藤長兵衛

九二七南電 三七九阪昔振


 総廐に字廐  
 うちはカルビエ  
 引張廐  
 横濱火災  
 支店 京域府銀路  
 龍清光仁門 3 号 1580 番  
 338

**寫眞**  
本町一  
ツタナヘ  
写真部

カメラの  
修理に  
お任せ  
マルマ  
で直ぐ  
修理  
なす  
マルマ  
を少し

具器金白用享化理

**金白.銀金**

**福**

**店商福石** 株式  
会社

町塙練區谷下市京東

枚一  
**50**  
セ  
犬一トツニ

皮膚泌尿花柳病  
醫學博士 渡邊普  
官醫資格 人日 日本赤十字  
昭和十二年四月及ビタ到

なると、  
とても獅子が  
良くなりませう

**M-15**

酒田にあり

# スナック

猪、猿、鶴、雁、虎、豹、雉子、鴨、其ノ他一切  
行取引落付者ハ申込可度

吸煙物  
産物品

## 高價仕切買入

### 山崎名産本舗

發山 大倉三丁目十三番地  
電話一四四五六番  
飯沼盤山(他)

京城府黄金町三丁目永樂町通り

**小内 本 田 病 院**

院長 星博士 本田 建 義

醫院ノ修業中及半日即ニ診察シテ藥ヲ下セズ

入院隨意

昭和十三年四月三日開張  
東京市豊島區宮前二五八番  
電話二三三八番

## 浪花節

吉田奈良丸集

大石扇馬の位立(他)  
大石扇馬の位立(他)  
大石扇馬の位立(他)  
大石扇馬の位立(他)

## 天中軒雲月集

廣澤虎造集

玉蘭堂(備後) 廣澤虎造集

新刊の大石松葉

[illegible]

冬だ肌をレアしたムールを

たんせき  
ぜんそく

りかくさん ぜんしんてき ちれう  
龍角散の全身的治療

映畫名優シユヴァリエの 咳

龍角散を一服のむと  
咽喉の苦しみがスリと  
飢まり、呼吸が樂々とな  
るばかりで、無く、全  
身に順となく生氣を盡  
返すやうな氣持がする  
と云はれて居ります。  
喉に一時前にセキやゼ  
ンツクを感める他藥と  
違ふ證據です。

日本最古のホ  
ルモン適用劑  
としての龍角散

これは何故かといふと、龍角散には近頃になつて漸く増進する  
胸のホルモン劑が適用加味されてゐる爲で、日本で一服古くから  
ある第一級進歩の痰喘藥なのです。

肺炎への變症防止作用  
これが爲め龍角散を服  
用して、たんせきぜんそくを治癒された方は、輕微回復が全般的  
でありますから脚氣、肺癆、肺結核等への變症を未然に防止す  
ることゝなるのであります。

龍角散

# 龍角散

## 主効

痰咳患者 〽 りたんにて、困難き慢性的の病  
 喘息患者 〽 思望を感じて、あつて、治癒の  
 咳頻發患者 〽 他人と對談のできぬほどの人々  
 風邪咳者 〽 流行性感冒のせき等一切  
 肺病咳者 〽 肺癆、肺氣腫、肺結核、  
 血痰患者 〽 肺の病に、血の果て、  
 百日せき 〽 お日咳は、咳を、咳に  
 麻疹せき 〽 はしかは、子癎の、咳に

●香味爽快にて服良く●絶對に副作用なく●胃腸を害する心配更になし

二日半 二十粒  
 一日 十粒  
 八日 五十粒  
 四日 三十粒  
 六日 二十粒

本鋪 株式 藤井得三郎商店

東京 九一番  
 電話 〇〇二六  
 花 〇〇二六

DI-6

[illegible]



# デイゼル發動船の 鮮内自給を目指す

## 年三十萬圓の造船補助助成

### 鮮内造船所の強化促進

朝鮮の造船業は、戦時体制の進展と共に、自給自足の道を歩みだした。特に、燃料消費の激しいディーゼルエンジン船の建造が、政府の重点的支援を受けている。本年四月、朝鮮造船協会の主催で、鮮内造船所の強化促進に関する会議が開かれた。この会議では、年三十萬圓の造船補助助成が決定された。この補助金は、ディーゼルエンジン船の建造に重点的に使われる。また、造船技術者の養成、造船材料の自給化など、総合的な造船力の向上が図られる。この補助金の活用により、鮮内造船所の生産能力は大幅に向上し、戦時体制に必要な船舶の自給自足が実現される見込みである。

# 電氣六社會議 劈頭から波含み

## 第一回會合開かる

朝鮮電力株式會社の代表が、大連、長春、瀋陽、延吉、平壤、咸興の六社を代表して、第一回會合を開いた。この會合は、朝鮮電力株式會社の代表が、大連、長春、瀋陽、延吉、平壤、咸興の六社を代表して、第一回會合を開いた。この會合は、朝鮮電力株式會社の代表が、大連、長春、瀋陽、延吉、平壤、咸興の六社を代表して、第一回會合を開いた。



# 準戦時財政の 基本的方面

## 野田 豊(二)

準戦時財政の基本的方面について、野田 豊氏が論じている。戦時体制の進展に伴い、財政政策も戦時化を進める必要がある。特に、戦時財政の基本的方面について、野田 豊氏が論じている。戦時体制の進展に伴い、財政政策も戦時化を進める必要がある。特に、戦時財政の基本的方面について、野田 豊氏が論じている。

# 木浦群山南浦は減少 其他は概ね増

## 前年下期の全鮮手形交換高

朝鮮銀行の発表によると、前年下期の全鮮手形交換高は、木浦、群山、南浦は減少したが、其他は概ね増加した。これは、戦時体制の進展に伴い、手形交換の需要が増加したためである。特に、木浦、群山、南浦は、戦時体制の影響を受け、手形交換高が減少した。一方、其他の地域では、戦時体制の進展に伴い、手形交換高が増加した。

# 仁川回漕船賃 四分の引上承認

## 昨日兩者代表が會見 最後の決定を見る

仁川回漕船賃の引上承認について、昨日兩者代表が會見し、最後の決定を見る。これは、戦時体制の進展に伴い、船賃の引上が必要となったためである。昨日、兩者代表が會見し、最後の決定を見る。これは、戦時体制の進展に伴い、船賃の引上が必要となったためである。

# 法人所得附加税 引上に伴ひ全免に内定

## 上旬米穀輸移出入

法人所得附加税の引上に伴ひ、全免に内定。これは、戦時体制の進展に伴い、法人所得附加税の引上が必要となったためである。上旬米穀輸移出入の状況も、戦時体制の進展に伴い、変化を遂げた。

# 鐵道黃海線 水橋長洲開通

## 三和株式現物店

鐵道黃海線の水橋長洲が開通した。これは、戦時体制の進展に伴い、鐵道網の強化が必要となったためである。三和株式現物店の状況も、戦時体制の進展に伴い、変化を遂げた。

# 目先一押し 三和株式現物店

目先一押し、三和株式現物店の状況。これは、戦時体制の進展に伴い、目先一押しが必要となったためである。三和株式現物店の状況も、戦時体制の進展に伴い、変化を遂げた。

福六吉  
店引取和吉

インフルと戦争  
大混戦を演ず

米と戦争  
米穀の争奪戦

米と戦争  
米穀の争奪戦

米と戦争  
米穀の争奪戦

米と戦争  
米穀の争奪戦

米と戦争  
米穀の争奪戦

米と戦争  
米穀の争奪戦

米と戦争  
米穀の争奪戦

米と戦争  
米穀の争奪戦

米と戦争  
米穀の争奪戦

米と戦争  
米穀の争奪戦

米と戦争  
米穀の争奪戦

米と戦争  
米穀の争奪戦

インフルと戦争  
大混戦を演ず

米と戦争  
米穀の争奪戦

米と戦争  
米穀の争奪戦

米と戦争  
米穀の争奪戦

米と戦争  
米穀の争奪戦

米と戦争  
米穀の争奪戦

米と戦争  
米穀の争奪戦

米と戦争  
米穀の争奪戦

米と戦争  
米穀の争奪戦

米と戦争  
米穀の争奪戦

インフルと戦争  
大混戦を演ず

米と戦争  
米穀の争奪戦

米と戦争  
米穀の争奪戦

米と戦争  
米穀の争奪戦

米と戦争  
米穀の争奪戦

米と戦争  
米穀の争奪戦

米と戦争  
米穀の争奪戦

米と戦争  
米穀の争奪戦

米と戦争  
米穀の争奪戦

米と戦争  
米穀の争奪戦

インフルと戦争  
大混戦を演ず

米と戦争  
米穀の争奪戦

米と戦争  
米穀の争奪戦

米と戦争  
米穀の争奪戦

米と戦争  
米穀の争奪戦

米と戦争  
米穀の争奪戦

米と戦争  
米穀の争奪戦

米と戦争  
米穀の争奪戦

米と戦争  
米穀の争奪戦

米と戦争  
米穀の争奪戦

インフルと戦争  
大混戦を演ず

米と戦争  
米穀の争奪戦

米と戦争  
米穀の争奪戦

米と戦争  
米穀の争奪戦

米と戦争  
米穀の争奪戦

米と戦争  
米穀の争奪戦

米と戦争  
米穀の争奪戦

米と戦争  
米穀の争奪戦

米と戦争  
米穀の争奪戦

米と戦争  
米穀の争奪戦



# 京城日報

頁四十共刊夕朝  
刊日新  
日一第千大報京  
報日城京 報日新 報日新

寄贈  
12.1.1  
報日新

## 告

益々御清穆の段奉賀陳者多年御愛顧を辱く致し居候處の京城府南米倉町一五九番地合資會社行政學會印刷所は都合に依り昭和十一年十一月二十四日解散仕候に付ては從來營業中格段の御引立に對し茲に厚く御禮申上候而して拙者京城地方法院昭和十一年非第三七三號清算人選任事件に於て同社の清算人に選任致され直ちに清算事務開始仕候條左様御承知相成度付ては右會社の商號並營業其の他一切を大谷保殿に譲渡し同氏は同所に於て「行政學會印刷所」の名稱の下に代表者として其の營業を承繼し從來通り經營致され候間舊行政學會印刷所同様御愛顧御引立御下命の程御願申上候 敬具

昭和拾壹年拾貳月貳拾八日  
京城府南米倉町一五九番地  
合資會社行政學會印刷所  
右清算人 置 敏 宏

## 承繼廣告

拜啓 向寒の御益々御清穆の段奉賀陳陳者京城府南米倉町一五九番地合資會社行政學會印刷所は大正十三年酒井與三吉氏に代表社員として御用命を承り多年御愛顧を辱う致し居候處今般小生右會社の商號並營業其の他一切を承繼經營致すことと相成候に就ては倍舊の御引立御下命を賜り度右不取敢紙上を以て御挨拶旁々御通知申上候 敬具

京城府南米倉町一五九  
行政學會印刷所  
代表者 大 谷 保  
電話本局 三三八八番  
振替 京三三九三五番

信用第一  
田池の自來水  
果甘の田池  
おみやげ第一  
北千代八丁目  
北千代八丁目  
北千代八丁目

### 朝鮮語講義録

朝鮮語講義録 全一冊 定價 二角五分

### 鮮單語對譯集

鮮單語對譯集 全一冊 定價 二角五分

### 警察官朝鮮語教科書

警察官朝鮮語教科書 全一冊 定價 二角五分

### 中等朝鮮語教科書

中等朝鮮語教科書 全一冊 定價 二角五分

### 易の朝鮮語會話

易の朝鮮語會話 全一冊 定價 二角五分

### 朝鮮語受驗者必携

朝鮮語受驗者必携 全一冊 定價 二角五分

### 朝鮮語式會話問題並

朝鮮語式會話問題並 全一冊 定價 二角五分

### 普通朝鮮語讀本譯解

普通朝鮮語讀本譯解 全一冊 定價 二角五分

### 自學程度朝鮮語問題

自學程度朝鮮語問題 全一冊 定價 二角五分

### 朝鮮語通信社

朝鮮語通信社 全一冊 定價 二角五分

### 朝鮮語研究會

朝鮮語研究會 全一冊 定價 二角五分

### 眼鏡

中村眼鏡店  
京府南米倉町一五九番地  
電話 三三八八番

### ミヤマ

ミヤマ SERVICE  
硝子と鏡に関する一切  
ガラスミヤマ  
TEL 1140  
明治三十一一年創業  
三田政商店  
京城 本町二丁目

### 噴霧器

噴霧器  
牛田式  
△果樹、蔬菜、園藝、消毒等  
△在園噴霧

### ラッカー

ラッカー (塗料)  
理化學研究所發明品  
「対酸、対アルカリ用」  
一回塗布にて足る、錆止用

### 横濱火災

横濱火災  
支店 京府南米倉町  
電話 三三八八番

### パイン

パイン  
政府補助優良國産機  
堅牢 優美  
静音 輕快  
價格 至廉  
(集善店約特)  
京城府南米倉町一五九番地  
電話 三三八八番

# 咳

せき

## ぜんそく 気管支炎

### 三大特色

A 鎮咳、祛痰の兩作用最も強く  
B 中毒性なく心臓衰弱を防止し  
C 少量にて老人、小兒に安全奏効

### 安全

良効を誇る

### 油斷禁物

軽い咳にも  
咳、喘息の發作は著しく  
疲勞を増し、殊に危険な  
心臓衰弱を來します。  
然し一時的に麻痺性強き  
劇藥の連用は尚更危險  
安全で少しも毒性がなく  
而も強心作用を兼備せる  
「ベルベニ」の服用が  
一番肝要です

### 効主

喘息、百日咳、たん咳、  
感冒、肺炎の咳、喉頭カタル、  
氣管支カタル、肺結核の咳、  
嘔れ聲、呼吸困難等

本劑は一般咳止めの藥と異り  
頭痛、嘔吐、耳鳴等の不快なる  
中毒症狀を來さず、咳を鎮め  
粘液を溶解して痰を切り、  
息苦しさを和け而も  
心臓保護作用に富む故  
一般のたんせきは勿論  
特に慢性經過を辿り易  
き喘息、百日咳等に最  
も好適の良劑です。

價 五十錢、一圓、二圓  
試用 三十錢  
各藥店、デパートに  
販賣す  
附記 各店に品物の  
は、振替口座 大坂十  
又、東京八〇二八番

三井物産株式會社 房藥會商平丹 元賣發  
三井物産株式會社 房藥會商平丹 元賣發



























A black and white photograph showing a man in a dark suit, white shirt, and tie, wearing glasses. He is standing at the foot of a hospital bed, leaning forward and looking down at a person lying in the bed. The person in the bed is covered up to their chest with a blanket that has a dark, repeating pattern. The room has a plain wall and a door is visible in the background. The lighting is somewhat dim, and the overall tone is somber.

一、大引、言

漫談大會

[illegible]

田中ちた子

御駕が半路廢たりしました。かと思ふとも、臨時膳間で御空の駕つたのたまは、品物を決めるのに送つてゐる女中と雖も、臨時退かせの客、デパートは實に因縁のきつたデパートであります。

十二日(水)  
第一放送  
同時第四〇分 ニエース  
同一時一五分(城) 婦人の時間  
(朝鮮語・釜山) 女性への希望  
即光

(一) 七時一分(東京) 東武線有楽町線  
西武池袋線の通過 白  
七時半三分(東京) 朝の修繕  
又、柳三子、乙竹、若尾  
七百五十分(平) 芝浦公園  
八時二〇分 今日の大気観測  
(京原・幸山)  
九時(東京) 家庭マメ  
九時一〇分 氣象通報(金田)  
九時一五分 氣象通報(釜山)  
十時(大井町) 料理職立・半田 料理  
十時五十分(東京) 中野郵便  
正午衣類の主人 家中で女子  
午後六時五分(東京) 戦報 日用品販売・鮮  
魚船便  
後援郵便五分(成) 掛合額 初登  
遊多 八桂 鯛次郎  
新式印刷機 柳平・垂哉  
動物はやし連中  
同六時三〇分(東京) 國民義演  
(伊奈) アムトリオ  
(國旗掲揚の歌) 木下 保  
同六時二〇分(東京) 短編集 筆のお精  
古(一) テキスト 宮城 蓮雄  
同三(一) 教師の時間  
讀本朗誦録(二) 小學國語讀  
本全巻  
同四 東京市東町小學校男児童  
指導 岡校樹彦 山本 龍男  
同五 東京市荒川小學校女児童  
指導 岡校樹彦 笠原 正子  
同三時四〇分(東京) 氣象通報・發  
同三時 ニュース(氣象通報・發  
同三時)(東京) 合唱 J・O五唱歌  
ピアノ伴奏 丹生 邦夫  
指揮 吉原 規  
「皇太后陛下御歌」花すみれ  
の歌 ニコトウワの夜三  
故郷の風景、四、コロレツ  
五、湖をのびくろ六、新島日  
本少女の聲  
同六時二〇分(東京) コドモの新聞  
村岡 花子  
同八時(東京) 週刊漫遊記 日本  
新聞社編輯部 司會  
一、デパート  
二、新年宴會  
三、ひらけ  
四、角力  
五、四丁の話  
同九時(東京) ピアノ獨奏  
「エニエ・ロバート」作品五  
一、奏曲(長・長調) 佐田五  
二、ベートーヴェン作曲  
三、アンダンテ・アポリ  
調 ベートーヴェン作曲  
同九時三〇分(東京) 時報・ニュ  
ス・氣象通報(地方) ニュ  
ス、習得の音韻  
同日 ニュース一朝鮮語・  
第二放送  
午後六時五分 洋楽  
同十一時五分 婦人の時間  
同十二時 柳光

○「イヤよしんば似てゐてもと  
ふ話さ」

だつて、おでんやずのりもある。  
 三時を過ぎると土井はか足の  
 物で相當に速つて土井はか足の  
 方から来るものゝ、完全に告され  
 既に新年賀物は幾いものである。

ヒガミ  
 カミ 章治

「ヒガミ」といふ、地味は、  
 勢多山、山ななでもなり。新  
 戦の山で、花が急に愛嬌  
 した花が、道はしげに  
 花つた。

角  
 西村小樂天

昔の角力は、朝日といひま  
 づ、雨は、おでんやずのりな  
 づ、雨は、おでんやずのりな  
 づ、雨は、おでんやずのりな  
 づ、雨は、おでんやずのりな

「たつて……貴方が私に常識にお  
なりになったんですもの、もう私  
を愛してめらつしやらないわ」  
何故急にそんなことをいふのかい  
ない、習です。少しの勇気はマダ

と佐藤はうらめげに曰く  
「でも、貴方は紙の外まで御  
顔に笑ひました」  
「おんごう人は、昨晩のきき方  
に添つてない、正確なバカに  
つけない正味なバカにつ  
かない顔をしてみろやない  
か」  
「何や? どうせおの顔はつま  
り」  
結つてゐるから考へても、萬事  
で程々へない思はれますが、こ  
國語にだけは、おの大きなだ  
で選んで早く終にしたのだと  
です。あれ、は、見なれて居  
が、外國人が有力な化けた  
を、カトリックと云ふた、お  
スカートした看護婦、館女中のか

だけ手数をけなくてはなりませぬ所地によりましては手をかけてもとのやうになりにくいものでございますから活點をつ

の四つの筋をつなぎ合せて一つつと

漫説とする

内鮮重輸作出版

瀬川 重清行 一月十二日 十三  
 阪東 丸行 一月十四日 十六  
 阪東 丸行 一月十六日 十八  
 丸行 一月十八日 十九  
 取 行 一月十八日 二十  
 相 歌 行 二月二日 四

依り閣浦戸内四時  
 舟仕れ可也

[illegible][illegible]

**朝鮮海洋社**

本社在東京  
支店在神戶  
電話 丁目五番地

**大原商船株式會社**

東京 支店

電話本局 〇〇三番

**國際運輸會社**

釜山 釜山船組

電話本局 〇〇三番

**釜山出帆**

每日午十一時  
到對馬島後  
每月十二回後  
四月十四日廿一日  
四月十六日廿四日  
四月十八日廿七日  
四月廿一日廿九日  
四月廿四日廿二日  
四月廿七日廿五日  
四月三十日廿八日  
五月一日廿九日  
五月四日三十一日  
五月七日三十四日  
五月十日三十七日  
五月十三日四十日  
五月十六日四十三日  
五月十九日四十六日  
五月廿二日四十九日  
五月廿五日五十二日  
五月廿八日五十五日  
六月一日五十八日  
六月四日六十一日  
六月七日六十四日  
六月十日六十七日  
六月十三日七十日  
六月十六日七十三日  
六月十九日七十六日  
六月廿二日七十九日  
六月廿五日八十二日  
六月廿八日八十五日  
七月一日八十八日  
七月四日九十一日  
七月七日九十四日  
七月十日九十七日  
七月十三日一百日  
七月十六日一百零三日  
七月十九日一百零六日  
七月廿二日一百零九日  
七月廿五日一百一十二日  
七月廿八日一百一十五日  
八月一日一百一十八日  
八月四日一百二十一日  
八月七日一百二十四日  
八月十日一百二十七日  
八月十三日一百三十日  
八月十六日一百三十三日  
八月十九日一百三十六日  
八月廿二日一百三十九日  
八月廿五日一百四十二日  
八月廿八日一百四十五日  
九月一日一百四十八日  
九月四日一百五十一日  
九月七日一百五十四日  
九月十日一百五十七日  
九月十三日一百六十日  
九月十六日一百六十三日  
九月十九日一百六十六日  
九月廿二日一百六十九日  
九月廿五日一百七十二日  
九月廿八日一百七十五日  
十月一日一百七十八日  
十月四日一百八十一日  
十月七日一百八十四日  
十月十日一百八十七日  
十月十三日一百九十日  
十月十六日一百九十三日  
十月十九日一百九十六日  
十月廿二日一百九十九日  
十月廿五日二百零二日  
十月廿八日二百零五日  
十一月一日二百零八日  
十一月四日二百一十一日  
十一月七日二百一十四日  
十一月十日二百一十七日  
十一月十三日二百二十日  
十一月十六日二百二十三日  
十一月十九日二百二十六日  
十一月廿二日二百二十九日  
十一月廿五日二百三十二日  
十一月廿八日二百三十五日  
十二月一日二百三十八日  
十二月四日二百四十一日  
十二月七日二百四十四日  
十二月十日二百四十七日  
十二月十三日二百五十日  
十二月十六日二百五十三日  
十二月十九日二百五十六日  
十二月廿二日二百五十九日  
十二月廿五日二百六十二日  
十二月廿八日二百六十五日  
十二月三十一日二百六十八日

榮養劑の  
 選擇に就て  
 病氣や體質によつて  
 向き不向のある榮養劑

その原因によつて効人と効か  
がありませぬ。なぜかと申しま  
「一應、病室になるには腹を  
因があつて全く興つた原因か  
も同じ様な病室が起ります」

か  
せ  
や  
す  
たい

その原因は脳脚も場合によつて  
断定し難い場合がありますので、  
普通は、先づ

は好まし、薬物等といへます

て聞ひが、少しであります  
その點で「能く病室かも」と

風邪ひき易い體  
丈夫にす

**最近** 英國の有名な栄養  
師、ハルモンの報告によれば、  
イタミンBとCは事實であるが、  
この補剤にはイタミンAの鹽類  
を配合する。これは事実であるが、  
外資系ではイタミンAを配合す  
るべく多くの場合、ハルモンを合  
成するアミノ酸の缺乏から来ま  
す。

[illegible]

過した。なごい浜を渡  
きまして、この鋭角なわが  
は、是れ湖のグルタチオンを始  
め、カルシウム等の無機物

[illegible]

卷四

其城醫師會	會長 李基
池田米次郎	高靈郡教員
會 長	禮山稅務
湯島船橋里船便所長	禮唐酒造
江崎宇一	禮唐酒造
北	成南風習寺主

慈城郡廳

光武紀理事

朴永善

坡州郡炭縣面

李鍾久

齋藤

御料理

フラスコ  
ドレー  
エー

電話

大	湖北全圖	狗	堂
宗	基	宗	基
漢	永	禧	好滋
金	劉	尹	金
漢	永	禧	好滋

除役後領事分館 事件 桐卓	東原市馬道五十番 田榮太郎
嶺南 理州 金沐 林谷	槐山警察署 職員一

安米酒造組合  
政 善  
釜山府凡町  
釜山移出牛  
志高

威南三水律新加坡里  
木村臨 姜 永

伊藤吉三

大 邸

新 義 出

三 橋 三 橋

別 本

龍 川 郡 農